

















# 令和7年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書









 <b>項目</b>	 <b>内容</b>
 <b>テーマ</b>	体操
 <b>テーマの設定理由</b>	<p>本園では、カワイ体育教室の外部講師による体操活動を週1回実施している。子どもたちが遊びの延長として身体を動かす楽しさを味わうとともに、鉄棒、跳び箱、縄跳び、マット運動、ボール運動、かけっこなどのさまざまな運動に、友だちと関わりながら意欲的に取り組めるよう活動を展開している。</p> <p>また、保育の中ではグループで活動を行う場面が多く見られることから、子ども同士の関わりの中で生まれる気づきや学び、互いに刺激し合いながら挑戦する姿に着目したいと考えた。これらの点を踏まえ、体操活動を通して、身体の使い方の理解に加え、協働的な学びや達成感を育むことをねらいとして、本テーマを設定した。</p>

## 2. 活動スケジュール

### 年長

	 <b>主活動</b>	 <b>活動内容</b>
4月	 集団行動	並びっこ、ゴーストストップ、色々な歩行
5月	 鉄棒	足ぬきまわり、前回り、逆上がり
6月	 マット運動	四足模倣、ゆりかご、前転等
7月	 跳び箱	山登り、手つき横跳び、カエル乗り
9月	 走り方	二人組ケンケンパー（前、後ろ、横）、走る遊び
10月	 リレー	バトンの受け渡し方、競う
11月	 大縄	大波小波、大縄跳び
12月	 短縄	跳び方、回し方
1月	 ボール	投げ方、キャッチの仕方
2月	 ドッチボール	投げる、キャッチを混ぜ競う、一年間のまとめ

### 年中

	 <b>主活動</b>	 <b>活動内容</b>
11月	 集団行動	動物模倣
12月	 マット運動	ゆりかご、でんぐり返し
1月	 なわ  ボール	連続ジャンプ、投げる、キャッチ、ボール送りゲーム
2月	 鉄棒	おさる、豚の丸焼き
3月	 鉄棒	前回り

---

### 3. 探究活動の実践

- 本活動では、年間を通して「鉄棒・マット運動・跳び箱・走り方・リレー・大縄・短縄・ボール・ドッジボール」といった多様な運動遊びに取り組んだ。
- 鉄棒は園庭に備え付けのものを使用し、繰り返し関わる中で動きに慣れたり、自分なりに技に挑戦したりできるようにした。マット運動や跳び箱では、安全に配慮しながら十分なスペースを確保し、段階的に取り組めるよう場を設定した。ボール運動では用途に合わせたボールを用いた。
- 活動内容に応じてホールと園庭を使い分けながら、体操教諭と担任が連携して見守りを行った。
- 活動中には、「できた」「もう一回やりたい」と繰り返し挑戦する姿や、「こうするといいよ」と子ども同士で動きのコツを伝え合う様子が見られた。リレーの活動では、少人数のグループに分かれて話し合いの場を設け、「どうしたらバトンを落とさずに渡せるか」「どうしたら速く走れるか」などを子ども同士で考えた。また、縄跳びにおいても話し合いを取り入れ、「どのタイミングで入ると跳びやすいか」「どうしたら続けて跳べるか」などについて意見を出し合う姿が見られた。話し合いが難しいグループには保育者が間に入り、子どもの発言を引き出しながら進行を援助した。
- さらに、話し合いで決めた工夫や友だちから教わったことを活動前に確認し、「さっきよりできた」「こうやってみよう」と振り返りながら実際の動きに生かそうとする姿があり、友だちとの関わりの中で活動を深めていた。
- 環境設定と対話の機会を通して、子どもが主体的に考えたり、友達と関わりながら運動に取り組んだりする姿が見られた。

---

### 4. 振り返り

- 同じ用具や環境であっても、繰り返し取り組む中で子ども自身が工夫し、動きを調整しながらできることを増やしていく姿が見られ、継続的に関わることの大切さを感じた。
- 子ども同士でコツを伝え合う姿や、話し合いを通して考えを共有する姿が見られ、対話の場を設けることで運動の理解や取り組み方が深まることが分かった。
- 活動の中における話し合いでは、自分の考えを言葉にすることや、友達の意見を受け入れる経験が、実際の動きの改善につながっており、「考えること」と「体を動かすこと」が結びついていることに気づいた。
- 話し合いが難しい場面では、保育者が適切に関わり子どもの思いを引き出すことで、活動が停滞せず進むことから、援助のタイミングや関わり方の重要性を再認識した。
- 友だちと関わりながら取り組むことで、「一緒にやる楽しさ」や「できた喜び」を共

有する姿が見られ、運動遊びにおける人との関わりが意欲や継続につながることに気づいた。

